仙台うみの杜水族館
SENDAI UMINO-MORI AQUARIUM

＜報道資料＞

報資―２６―０８
２０２６年１１月

仙台うみの杜水族館

アメリカビーバーがうみだす「暮らし」が体感できる新施設
つながりの水辺 ～ビーバーのすみか～
【２０２７年３月オープン予定】

海と人、水と人との、新しい「つながり」をうみだす水族館『仙台うみの杜水族館』では、１階「広瀬川 海のみなもと 山・里・川」の区画を一部整備し、アメリカビーバーがうみだす「暮らし」が体感できる**新施設「つながりの水辺～ビーバーのすみか～」が２０２７年３月に誕生します。**

つながりの水辺
The Waterside of "Tsunagari"

仙台うみの杜水族館は、「日本のうみ」「世界のうみ」「海獣ひろば」「うみの杜スタジアム」「うみの杜ビーチ」の５つのゾーンで構成されています。今回、半屋外エリアである「広瀬川 海のみなもと 山・里・川」の区画を一部整備し、「日本のうみ」と「世界のうみ」をつなぐ新ゾーンとして**「つながりの水辺」**が加わり、新たなアメリカビーバーの新施設として、**「つながりの水辺～ビーバーのすみか～」が誕生し、新しい導線・体験を生み出します。**

「つながりの水辺～ビーバーのすみか～」では、アメリカビーバーの象徴的な行動である「巣づくり」、家族で暮らす「絆」、そして家族で協力して巣をつくり、守り、整えていく「共同作業」に焦点を当て、来館者のみなさまが“アメリカビーバーの暮らしの中”に入り込むような体験をお届けします。家族と支え合いながら暮らしをつくるビーバーの姿を通して、私たちにも通じる“つながり”に触れていただける環境を生み出していきます。



Seibu Group
でかける人を、ほほえむ人へ。

仙台うみの杜水族館
SENDAI UMINO-MORI AQUARIUM

「つながりの水辺～ビーバーのすみか～」展示内容

新施設としてオープンする「つながりの水辺～ビーバーのすみか～」は、水場・陸地・巣小屋を見られる展示構成が特徴です。アメリカビーバーは夜行性のため、日中は巣小屋で休んでいる姿が多く見られます。そこで本施設では、巣小屋に観察窓を設け、休息時の様子も含めて暮らしを観察できる展示となります。
また、アメリカビーバーは、枝や泥で水の流れを調整し、水位を保ちながら住まいと環境を“自ら作りあげる”ユニークな生態を持ち、「生態系のエンジニア」とも呼ばれています。木をかじる、水を泳ぐ・潜る、巣材を運ぶなどの行動が「ビーバーのすみか作り」へつながっており、この展示を見ている皆さまに体感いただけるよう様々な工夫を展示に施しています。さらに本施設は、ビーバーが自ら“すみか”をつくる行動を尊重し、行動観察と健康管理を続けながら、暮らしが安定する環境を支えていきます。その先にある繁殖を見据えた飼育にも取り組みます。





アメリカビーバー（幸、ぷかぷか）

広瀬川 海のみなもと 山・里・川 ニホンリス展示もリニューアル！

「つながりの水辺～ビーバーのすみか～」と隣接することとなる、「広瀬川 海のみなもと 山・里・川」でも、ニホンリスの展示環境を刷新し、ニホンリスたちの高い身体能力や俊敏な動きをよりダイナミックに引き出し、リスの暮らしがより豊かになる展示へリニューアルいたします。トンネルなどの立体的な展示要素を導入した新たな展示で、巣箱を行き来したり、ゆったりと木の陰で休む姿など自然に近い行動を生み出せる展示環境へアップデート。これまで以上に活き活きと駆け回る愛らしい姿を、ぜひお楽しみください。





